

技術と社会部門 2017 年度部門賞 部門功績賞受賞者挨拶

部門功績賞を受賞して

緒方 正則(元 関西大学)

このたび、部門功績賞を母校で開催された2018年度年次大会の部門同好会においていただきましたことは、奇縁を感じずにはおられません。想起せば、これまで二度開催された全国大会(当時)に次いで三度目の正直で2007年の年次大会が関西大学で開催されたとき、一実行委員として立て看板作りと設置、同年に始まったばかりの機械遺産のパネル展示、部門運営委員会の会場準備などで走り回ったことがありました。今後、四半世紀は巡ってこないと言われていたにも関わらず、意外にも早く開催が決まり、もはや現職でもない者が部門代表委員を委嘱されるとは思ってもないことでした。



市民フォーラムの一コマ:スターリングエンジンの製作

今や世間から大いに注目され、一般社会における学会への認識を高めることとなった「機械遺産」に関わることができ、また、日中機械設計・機械技術史国際会議や日本ブータン国際会議開催のお手伝いできたことは、日本機械学会会員でいたからであり、定年退職したにも関わらず、学会より引き立てていただけることは気力・活力の源泉となり、誠にありがたく思います。

とくにご縁があり、ブータン王立大学を構成する10大学の一つ、唯一機械工学科短期コースが設置されているジグミ・ナムゲル工業大学において、正規教員として1年という短い期間でしたが、もの作りの基礎となる機械製図を講義でき、その間、ブータン王国初の4年制機械工学科を2019年7月に開設するためのお手伝いできたことは、私にとり貴重な経験と掛替えのない人生の一齣となりました。



大学の若手教員とともに
(後ろに居住していたアパートがある)



着任早々、アパートの教職員の皆さんから接待を受ける。
慣習により、床に座り、手づかみで食事する



機械工学科2年生(50名)の講義の一コマ



機械工学科の製図室は自動車整備工場の一隅を間借り

ここに述べましたことは、私一人で出来たことでは決してありません。皆様の御支援と御教導の賜物に依るものです。

今回の功績賞の受賞は、皆様と共にいただいたということ肝に銘じ、これからも日本機械学会の社会貢献活動のお手伝いを微力ではありますが続けて行く所存です。

今後とも御指導と御協力を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.39

(C)著作権:2019 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門